

# ふるさとわがまちづくり

## 成合自治区

### ◆「成合」の由来

成合自治区は東海自然歩道が通るなど自然に恵まれた山間の自治区です。県道中金百々線を北に進み、上鷲見小学校を左に見て、車で10分ほど走ると、峠を越えた辺りから盆地に発達した成合の町並みが箱庭のように見えてきます。

歴史的にも江戸時代より善光寺道（三州馬道、信州街道などの呼称あり）が通り、また現在は東海自然歩道も通っております。

成合（ならい）は台地で平坦なという意味があるそうです。実際にはあまり広くはない盆地で南北に約2キロです。愛知県の地名録にも「集落内は水路が網の目のようで、これを生かした水田が発達し…」とあります。

### ◆お子安さん

集落中ほどに、安産子宝祈願で有名な、お子安さん（成合子安地藏尊）があります。昔に比べて減少したとはいえ、今も遠路聞きつけて参詣され、腹帯の借り受けをされる方、また、その結果ご利益に預かり喜んでお礼参りに訪れる方も多数お見受けいたします。お子安さんには、伝説が2説あり1つは「地藏尊の盗み出しの話」、もう1つ



は「腹帯の色にまつわる話」、また他にも「高岩の椀貸しの話」などがあります。これらは厨子の安置してあります堂宇に、伝説の説明書きが掲示してありますので御覧方々是非、子宝・安産祈願の「お子安さん」に多数御参拝ください。

尚、この伝説は風土記や豊田むかしばなしにも載っていますので、こちらもぜひご覧ください。

縁日は4月24日ですが、他に毎月5日と24日の2回住民こぞってのお参り、読経は今も続いております。これも成合住民の格別な信仰心の篤さかと思えます。このお子安さんを中心とした「結」の心は今も受け継がれ、自治区のまとまりは素晴らしいものがあります。



### ◆現在の課題

30年前の当時と変わらぬ風景が目映ります。現在、20戸（22世帯）で人口98人、慶長18年（385年前）の検地帳に24戸、118人（男57人、女61人）、石高100石、とあります。約400年来大きな変化もない平穏な自治区と言えます。でも必ずしも保守的、閉鎖的ではありません。早くから積極的に県道（345号線、中金百々線）の改修を実施したり、石野地域で唯一、土地改良事業の実施及び「成合稲作組合」を設立して共同作業を実施したり、中山間直払い事業も全戸加入で積極的に参加などしております。

町内こぞっての年1回親睦研修旅行は、昭和54年の土地改良事業を契機に、現在まで（30年間）一度も欠かすことなく実施されるなど、自治区民にとっては住めば都（みやこ）、以上の何か（魅力）があると感じております。

ただ、少子高齢化が一段と進み、今迄培ってきた色々な諸活動が先細りになるのではないかと懸念をしていることも事実であります。しかし地元を愛する多くの住民の力で必ず解決してくれることと信じております。そして冒頭にあるように、成合町の原風景とも言うべき里山が整備され、道路沿いには花が咲き競い、更に美しいまちへと発展することを。

### 成合自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：20世帯  
：21世帯（昭和52年）  
組数：3組  
面積：1.049K㎡  
自治区たより：「千鳥・成合自治区だより」  
年3回  
回覧：月2回  
ふれあい広場：1箇所  
防犯灯設置箇所：10箇所  
小学校：上鷲見小学校区  
自治区会館：成合集会所